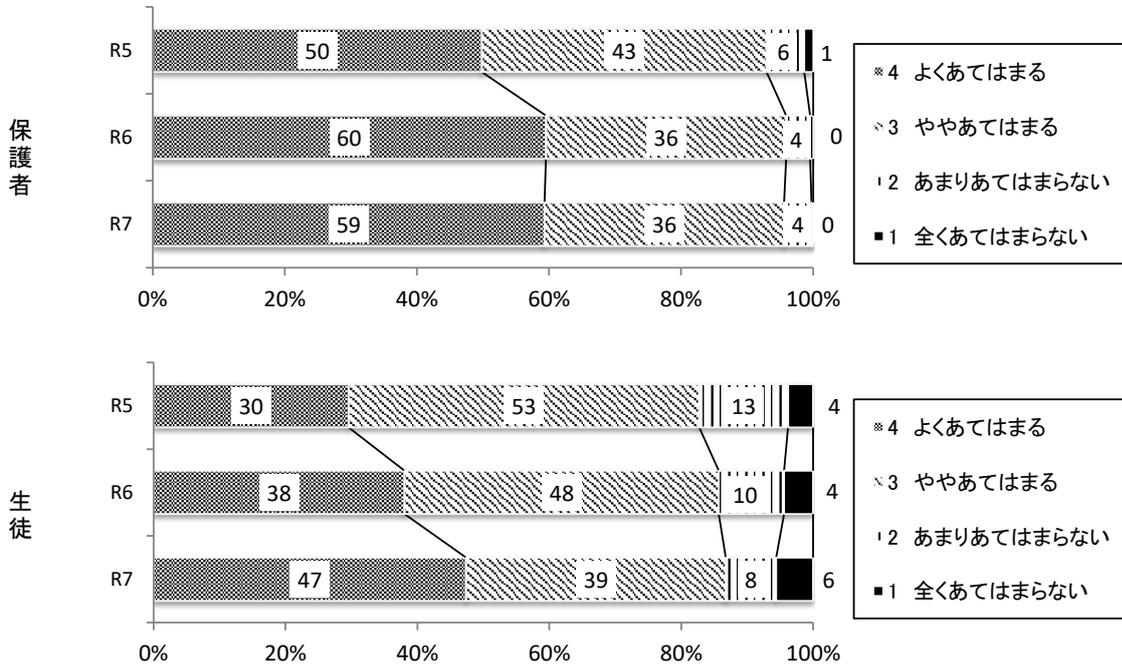


# 1 学校評価(保護者・生徒) 結果分析 【グラフ内の数値は割合(%)】

## (1) 過去3年間の比較

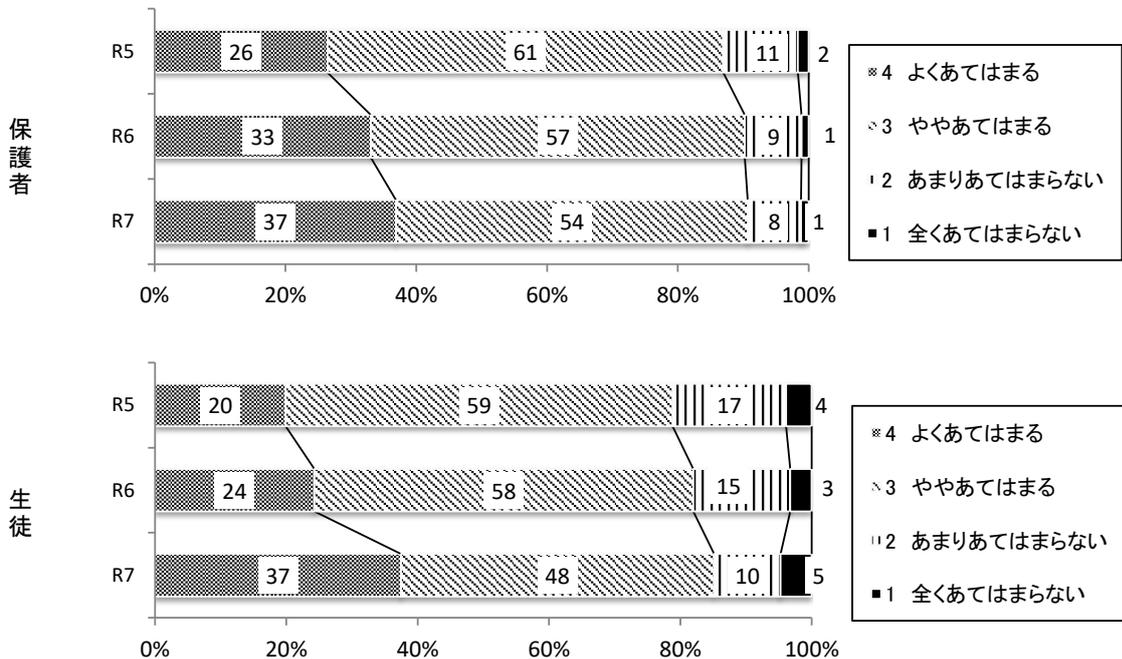
### ① 鹿児島中央高校に入学させて(入学して)、よかった。

⇒ 肯定的な評価の割合が高く、生徒・保護者ともに否定的な評価の全体的割合は減少していた。一方、生徒による評価「評価1」はやや増加していた。本校へのニーズを把握し、それに応えていけるような取組をしていきたい。



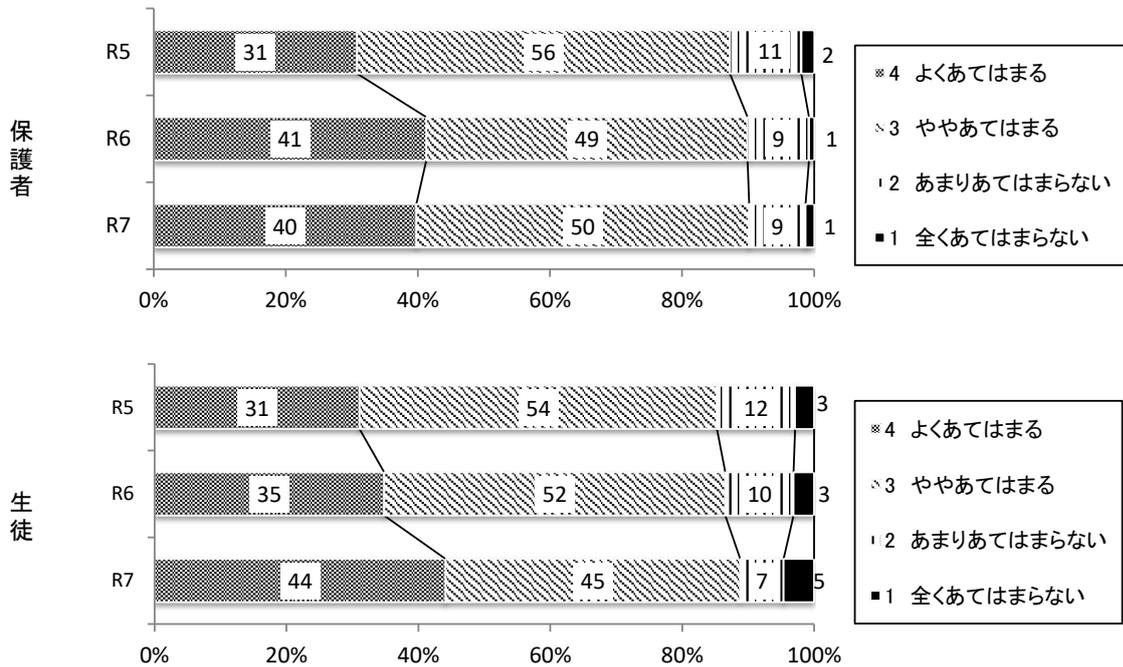
### ② 鹿児島中央高校は、生徒の個性や学力を伸ばすための教育活動を展開している。

⇒ 3年連続で生徒・保護者による肯定的な評価の割合が上昇している。特筆すべきは、教育活動に対して「評価3(消極的肯定)」から、自身の成長や充実感を伴う「評価4(積極的肯定)」へと意識の変容が見られる点である。今後は学校側のねらいや教育内容をよりの確に発信し、生徒の充実感と保護者の信頼を確かなものにしていきたい。



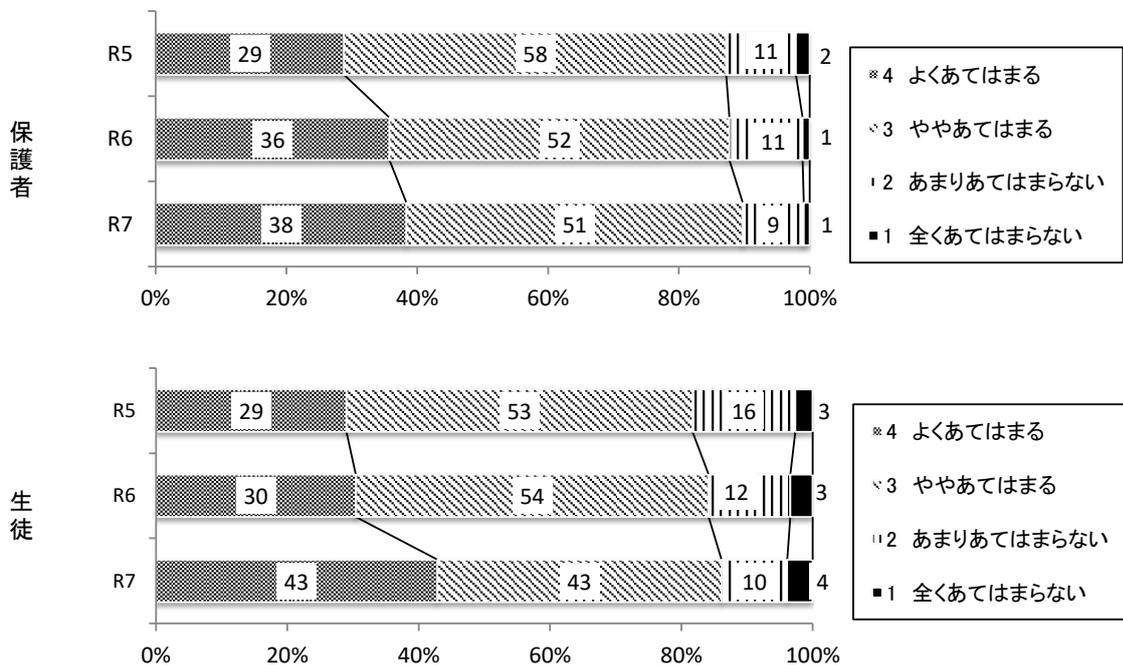
③ 鹿児島中央高校は、生徒一人ひとりの進路目標達成のための適切な進路指導を行っている。

⇒ 3年連続で生徒・保護者による肯定的な評価が上昇している。特に生徒の「評価4」が31%から44%へ急増した点は、受動的な情報の受容「評価3」から、支援を実感し主体的に進路を拓く状態「評価4」への意識変容を示している。生徒の充実感と家庭の信頼が相乗効果を生んでおり、今後もこの基盤を生かし多様な進路実現を支えていきたい。



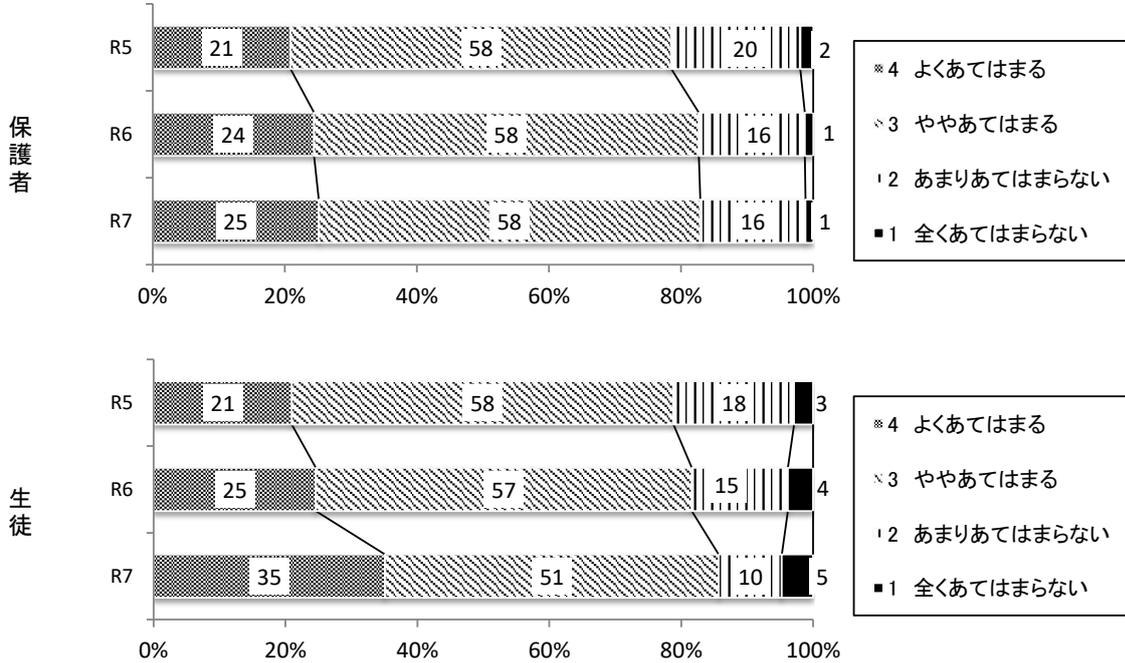
④ 鹿児島中央高校は、生徒が学習活動（授業・自宅学習）に熱心に取り組む指導をしている。

⇒ 3年連続で肯定的な評価が向上し、特に生徒の「評価4」が43%へと飛躍的に伸びた。これは学習を自身の成長に直結するものと捉える意識の変容によるものであり、保護者の信頼も厚い。今後は意欲を維持させるためのきめ細かな支援を継続し、自律的な学習態度の定着を図る。



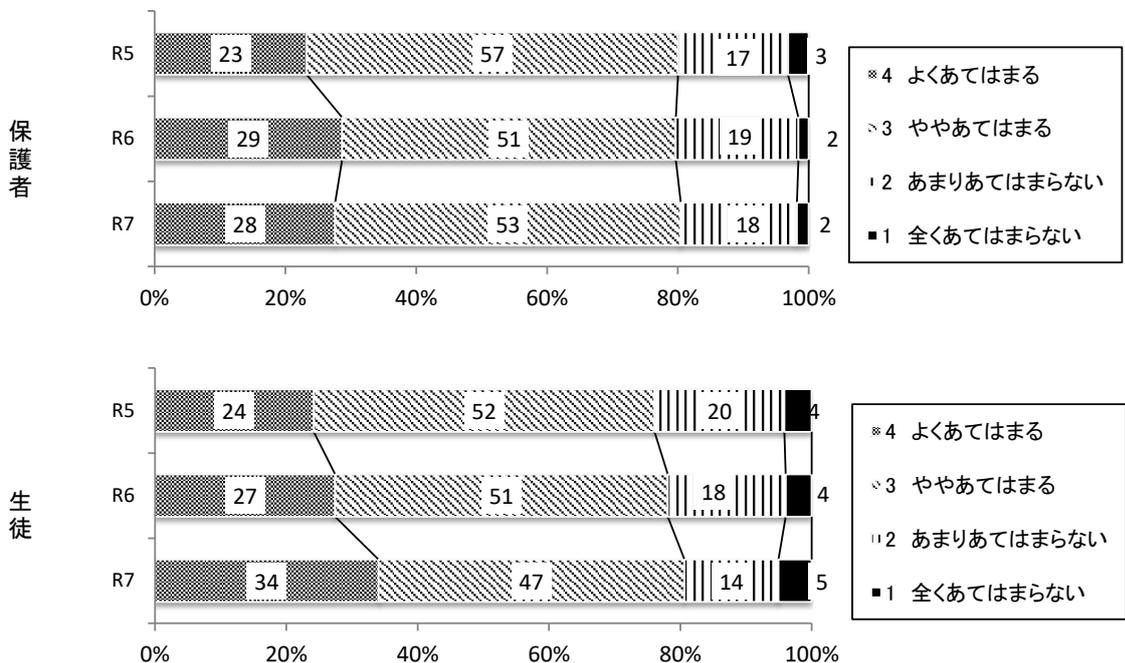
⑤ 鹿児島中央高校の授業は分かりやすく、学力をつけるための工夫がなされている。

⇒ 3年連続で肯定的な評価の割合が増加し、特に生徒の「評価4」が35%へ飛躍した点は授業改善の成果と言える。一方、保護者の否定的な評価（17%）の割合は生徒を上回り、評価の二極化が伺える。今後は授業での理解を家庭での定着へ繋げるため、個別フィードバックや家庭学習との連携を強化し、きめ細かな指導を展開していく必要がある。



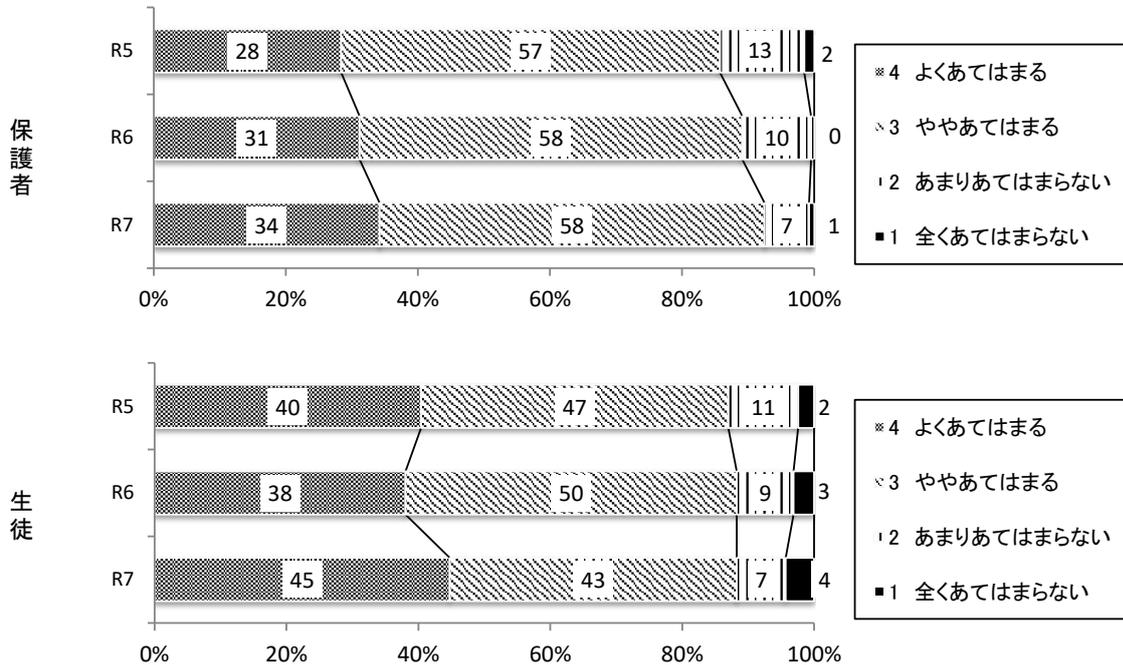
⑥ 鹿児島中央高校は、学校の情報を積極的に家庭や地域へ発信している。

⇒ 3年連続で肯定評価は微増し、生徒の「評価4」が34%に達するなど一定の成果が見られる。しかし、保護者・生徒ともに約2割が否定的な評価を投じており、全項目中で否定的な評価の実人数が多いという課題が継続している。肯定層の満足度が深まる一方で、依然として情報ニーズの二極化が見られる。昨年度の課題を継続し、一方的な発信に留まらず、生徒や保護者が真に求める情報をダイレクトに届けるための工夫が必要である。



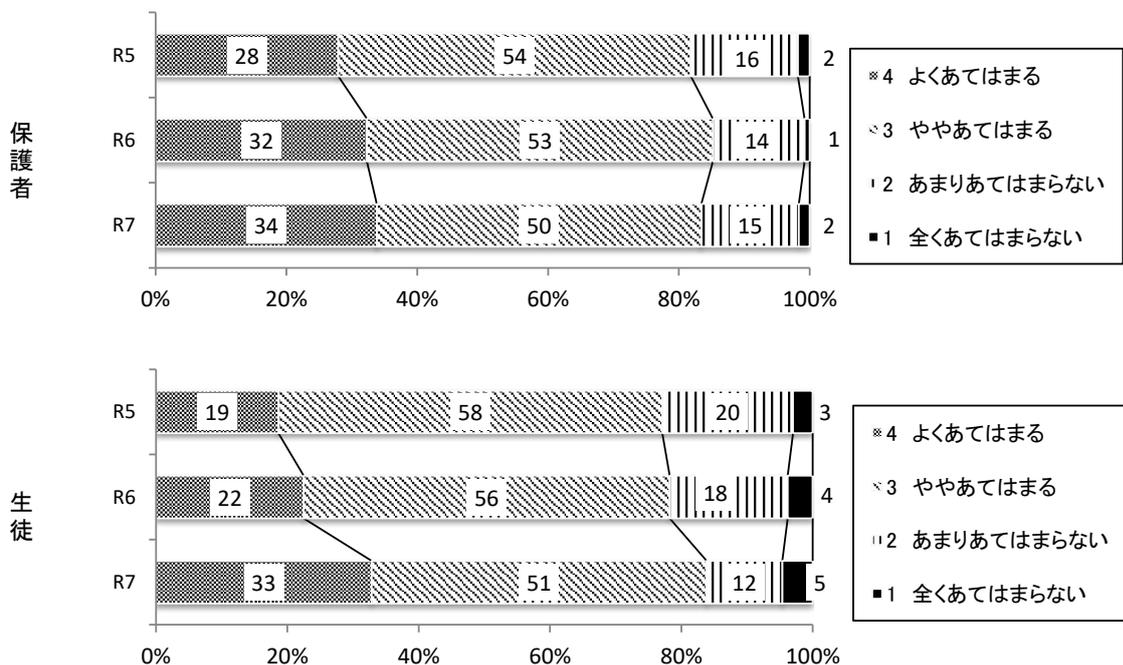
⑦ 鹿児島中央高校は、校則や交通ルールなどの規範意識を高める指導をしている。

⇒ 生徒・保護者の肯定的な評価は3年連続で上昇し、特に保護者は92%と極めて高い数値であった。生徒の「評価4」も45%を記録し、ルールの意義を主体的に捉える姿勢が強まった。自由記述のコメントには校則についての否定的な意見も多く見られるが、今後も規定の必要性を検討した上で合理的な説明を行い、指導への理解を得ていく必要がある。



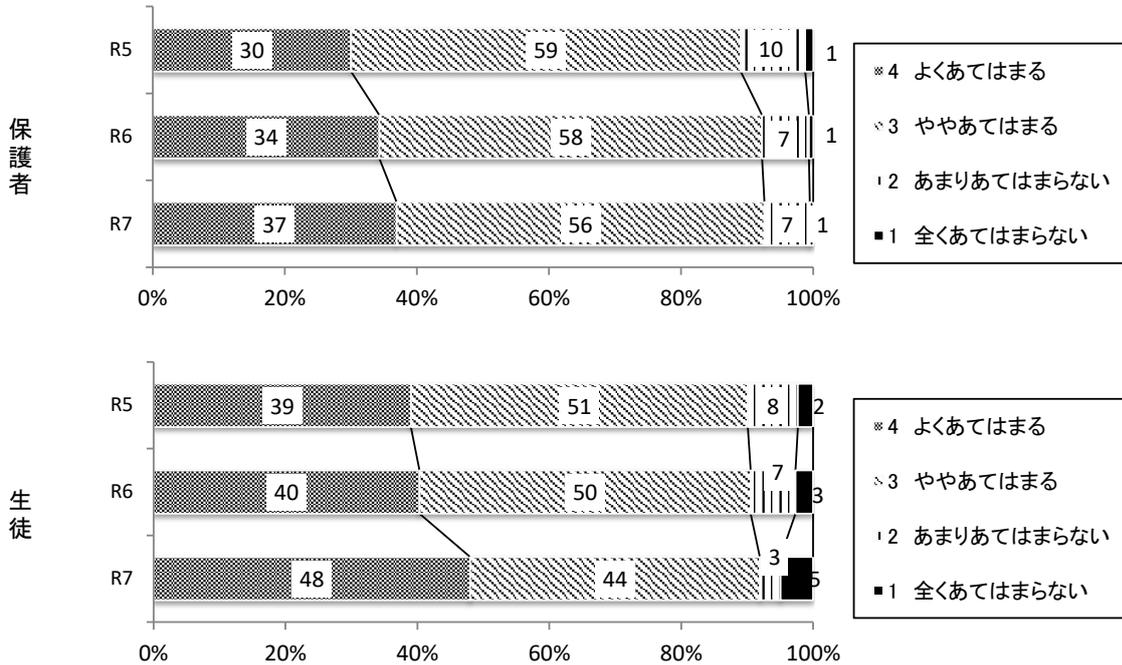
⑧ 鹿児島中央高校には、生徒や保護者が相談しやすい雰囲気がある。

⇒ 3年連続で肯定的な評価が向上し、特に生徒の「評価4」が33%へと急増するなど、教職員への信頼は着実に高まっている。一方で、保護者の否定的な評価の割合が増加するなど、相談しにくさを感じる層もあり、二極化の傾向が見られる。今後はコミュニケーション手段の多様化やこまめな情報の共有を図り、より開かれた相談体制の構築に努める必要がある。



⑨ 鹿児島中央高校は、生徒の生命や安全を守る取り組みを適切に行っている。

⇒ 生徒・保護者の肯定率は共に90%を超え、安全管理に係る取組に対しては高い評価を得ているという結果であった。特に生徒の「評価4」が48%に達したことは、日々の安全指導が形骸化せず、生徒一人一人の実感として深く浸透していると考えられる。否定的な評価は最小限に抑えられているが、今後も規範意識や相談体制の充実と連動させ、誰もが安心して過ごせる教育環境を維持・強化していく必要がある。



⑩ 鹿児島中央高校は、生徒にとって学びやすい環境を整えるために、施設の整備に取り組んでいる。

⇒ 施設整備の肯定的な評価は生徒・保護者ともに90%を超え、特に生徒の「評価4」は半数近い49%に達した。一方、生徒の自由記述では自習室の開放を求める声があり、高まった学習意欲に対して場所の提供が不足している課題も浮き彫りになった。今後は現在の高い施設評価を背景に、生徒の「学びたい」という意欲に応える運用面の工夫や、自習環境の拡充に注力する必要がある。

